

2010年3月8日

ご参考資料

Follow
Up
Memo

フォローアップメモ

アイスランドの最近の状況について

nikko am
fund academy

アイスランドで3月6日に預金補償法案に関する国民投票が行なわれ、事前の世論調査から予想されたとおり、反対多数で同法案の否決が確実となりました。

同法案は、世界的な金融危機の影響などから破綻に追い込まれたアイスランドの大手銀行に預けられていた、英国およびオランダの預金者の資金返済問題の解決に向けたものです。2009年12月末にアイスランドの議会で可決されたものの、国民の反発が多いことを理由に大統領が法案への署名を拒否したため、その是非を国民投票に委ねることになりました。

格付会社のムーディーズやS&P（スタンダード・アンド・プアーズ）は、同法案が否決され、預金補償問題の行方が不透明になれば、IMF（国際通貨基金）の支援融資の実行遅延や同国の資本規制の長期化につながるとの見方から、アイスランドの格下げの可能性について言及しています。

今回の法案否決により、預金補償問題の解決には更に時間を要すると予想されます。ただし、アイスランド政府は、従来から国際債務を履行する意思を明確に示しており、大統領の法案署名拒否後もイギリス、オランダ両国およびEU、IMFと連絡を密にとり、代替案作りに向けて資金返済に絡む金利の引き下げなどの具体的な条件について交渉を継続しています。

また、IMFの専務理事は3月7日、同法案の否決が確実視される中、IMFはアイスランドを支援することにコミットしているとコメントし、アイスランド向け融資を表明した北欧諸国が公約を果たすと確信しているとした上で、預金補償問題は、IMFが計画を進めるための前提条件ではないとの見解を示しました。

なお、国民投票の結果が世論調査どおりだったことから、外国為替市場では今回の否決が概ね織り込まれているとの見方が大勢を占めていますが、短期的には変動が生じることも予想されます。

アイスランドの足元の経済状況は大幅なマイナス成長と厳しい状態ながら、事前の予想ほど大きな落ち込みとはなっていません。これは、政府や中央銀行の経済建て直しに向けての対策が効果を上げ始めているためであり、今後も経済を下支えしていくと予想されます。（経済状況については次頁をご参照ください。）

<ご参考> 主な格付機関によるアイスランドの長期債務格付(2010年3月5日現在)

	ムーディーズ	S&P
本国通貨建て長期債務格付	Baa3	BBB+
外国通貨建て長期債務格付	Baa3	BBB-

※上記格付は過去のものであり、将来変更となる可能性があります。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

◆経済状況について

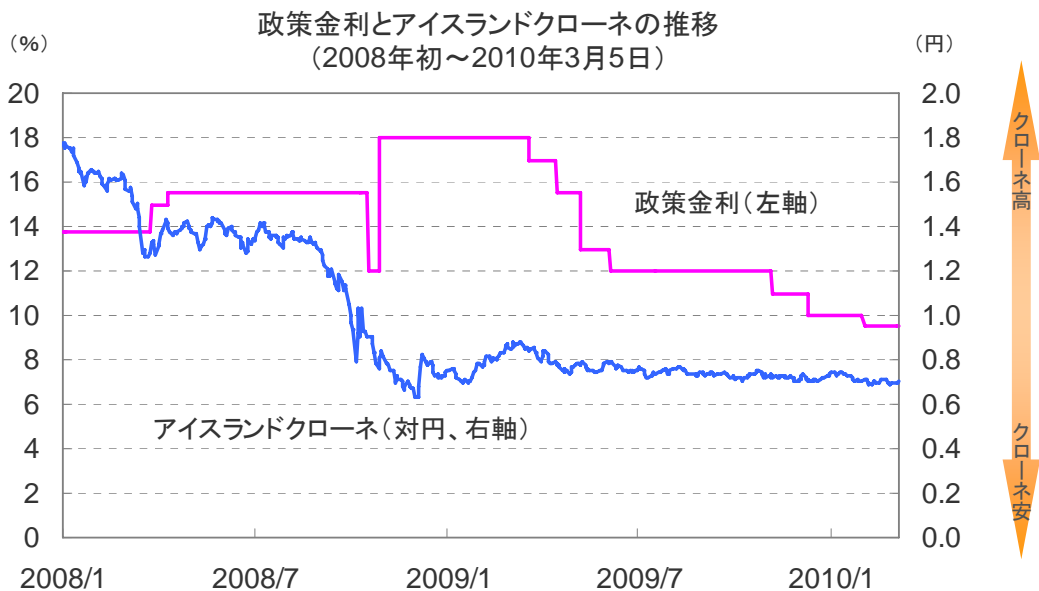
アイスランドは、IMFの支援を受けて2008年11月に導入された経済回復プログラムに引き続き取り組んでいます。

2009年12月にアイスランドを訪れたIMF代表団は、アイスランドの経済全体は引き続き困難な調整に直面しているものの、これまでの政策によって、景気後退が予想ほど深刻でなかったことを確認しました。

足元の状況は以下のとおりです。

- ・2009年のGDP成長率は前年比▲10%と予想されていましたが、速報ベースで同▲6.5%と縮小幅は予想されたほど大きなものではありませんでした。
- ・2009年の失業率は、9%を見込む向きもありましたが、8%程度にとどまりました。
- ・インフレは落ち着いており、中央銀行は政策金利を18%から9.5%にまで段階的に引き下げました。2010年も引き続きインフレが落ち着くと予想されることから、利下げの継続が予想されます。
- ・貿易収支は2010年2月まで18ヵ月連続で黒字を計上しており、今後、年間ベースでGDP比10%程度の水準に達すると予想されています。
- ・政府は、2013年までの財政健全化の達成をめざし、支出削減と増税などを柱とする大規模な緊縮財政プログラムに取り組んでいます。

中央銀行は経済成長率がプラスに転じるのは2011年と予想しており、景気の本格的な回復にはまだ時間がかかると見られますが、今後は利下げによる景気下支え効果が期待されます。また、貿易黒字の拡大などにより経常収支の改善も見込まれることから、アイスランド経済の健全化が進むものと予想されます。



(信頼できると判断したデータを基に日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。